

# NEWSLETTER

No. 10

岐阜大学国際交流室 1990年12月28日発行

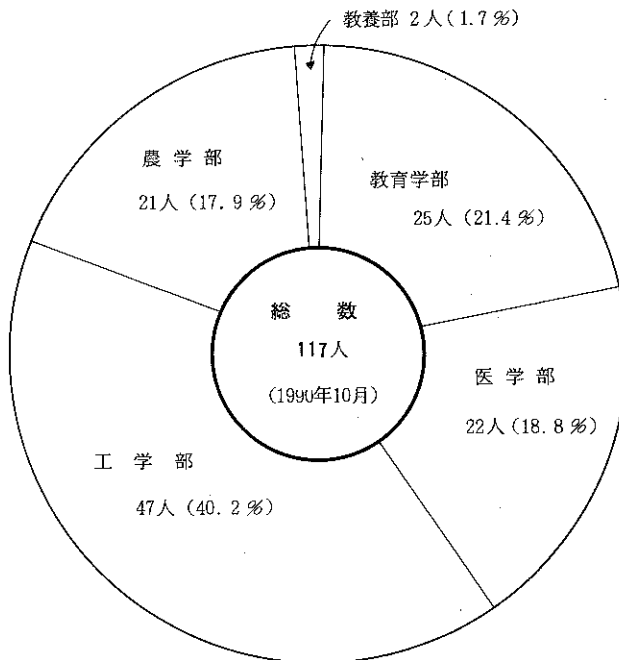
## 117! 今, この数を考える!!

～岐阜大学における留学生数の現状～

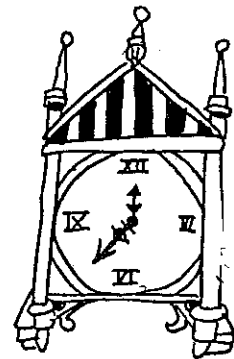
現在, 岐阜大学に在籍し, 各分野で自分の研究を進める留学生は 117 人。岐大生の総数 5,351 人と比べると, わずか 2.2% で数自体は多いほうではない。しかしながら, 5 年前の留学生数 (37 人) と比較すると, 決して少ないと言える数ではないということがわかつて思う。特に, 私費留学生の占める割合が多いのには注目すべきであろう。(資料③参照)

今回の NEWSLETTER では, 数の上での留学生の現状を 4 項目に分けて追ってみた。

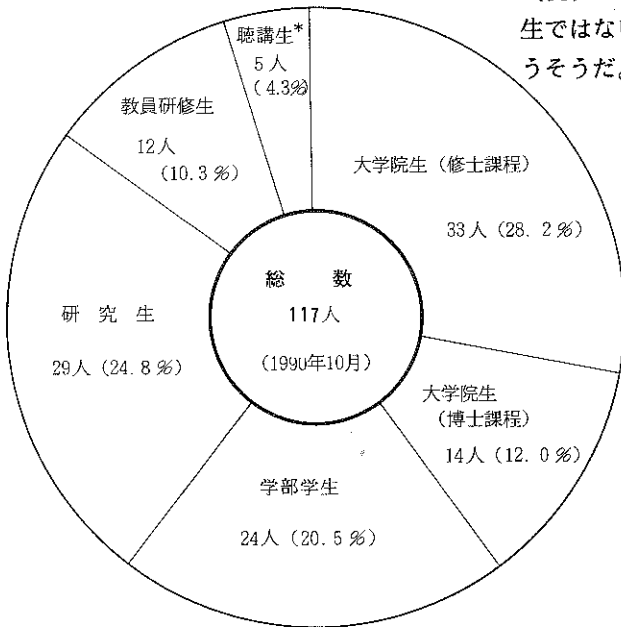
資料① 《学部別内訳》



地理的な問題から, 全体の約 2 割を占めている医学部在籍の留学生に関してはあまり本部の留学生との交流がないのが現状のようだ。



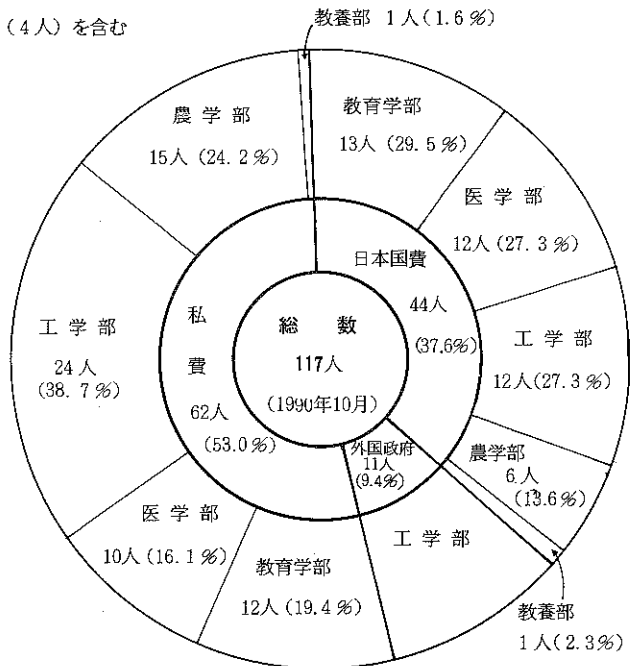
資料② <<在籍者資格内訳>>



今回資料を提供していただいた学生部留学生係によると、この117人の中には「研究者」と呼ばれる留学生は含まれていない。(現在11人)。もちろん、研究者なので学生ではないが、研究者については管轄が違うようだ。

\*各姉妹提携校からの特別聴講学生(4人)を含む

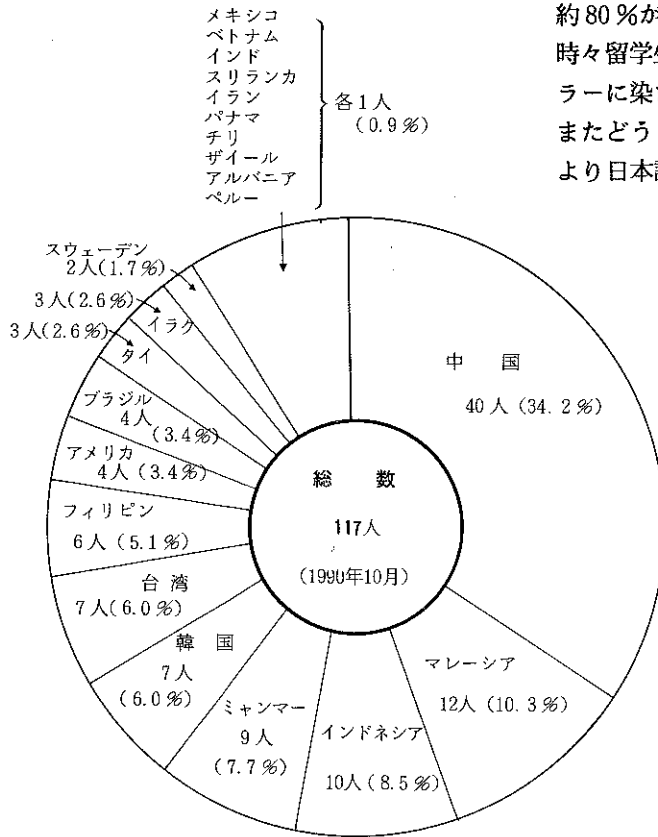
資料③ <<学費別内訳>>



117人という留学生を抱えて、その宿舎となる国際交流会館の部屋数は、夫婦室・家族室を合わせて、わずか36室である。抽選にもれた留学生や、国際交流会館での滞在期間が1年を越えた留学生は、大学の近くにアパートを借りることになる。国費留学生はともかく、私費留学生が日本の物価に正面から立ち向うように思うのだが…。

宿舎だけでなく、関係方面の施設の充実が今大きな課題となっている。

資料④ 《出身国別内訳》



グラフからもわかるように、全体の約80%がアジアからの留学生である。時々留学生とは思えない程、岐大のカラーに染まりきっている留学生もいる。またどうしてかわからないが、留学生より日本語が話せない岐大生もいる。

おりしも海外旅行ブーム最盛期である。勿論、外国へ行くのも結構であるが、117人の留学生を迎えている今、無限のチャンスが身近なところにいっぱい隠れているのである。自分を広げられる可能性も無限大なのに、もったいないと思わないのだろうか。それとも食堂で読む雑誌は、それほどおもしろいものなのだろうか。

現在の留学生達のアウトラインだけでも、分かっていただけであろうか。大きなこと、目立ったことはしなくても、ごく身近で起っていることは、それなりに考えて対処していくべきではないだろうか。

ここで耳寄りな情報を一つ。毎年3回、「国際理解教育の集い」が催されている。毎回2人の留学生をパネラーに迎えて、文化、教育、政治、生活習慣、果ては結婚事情までバラエティーに富んだ内容でいつも時間をオーバーしての白熱ぶりである。参加資格は“何でも知りたいと思うこと”である。場所は、国際交流会館1F会議室。次回は1月の予定。詳細は国際交流室まで。

### 第3回岐阜大学サマースクール無事終了！

今年も例年と同じく6、7月の2ヶ月にわたって“岐阜大学サマースクール”が開講されました。毎年のことですが、涼しいスウェーデンから来た留学生にとって、日本の夏、特に6月は地獄にも似たところがあるようです。今回参加者は、男性1名を含む5名という小規模なものでしたが、2ヶ月間日本語と日本文化をしっかりと吸収していったようです。その中の3名のコメントを御紹介しておきます。

なお、このサマースクールにおきまして、ホストファミリーをはじめ関係各位には、大変お世話になりました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。

#### グニラ・エベルハルド

8週間が早く立ちました。残念ながら、明日の朝岐阜から出発します。この8週間の間だんだん日本語と日本の生活になれて、皆さんのお世話にもなりました。

日本へ来るのは2回目で、去年の秋にも日本へ2週間の旅行をしにきました。その時日本をよく見渡すことが出来ましたが、日本人に会う機会はあまりありませんでしたので、日本の社会や日本の習慣などは私にとってまだ難解なことでした。他の国を理解するためにその国の国民に会うことが最も大切だと思います。

ですから、今度、岐阜での滞在中色々な人を知って、少しずつ日本がわかるようになりました。実はサマー・スクールの最も楽しくて面白い思い出は岐阜の人々に会ったことです。特にホスト・ファミリーと、先生達の我慢強さと日本についての沢山の長い説明には感謝しています。

では、皆さんお元気です！又いつかどこかで会いましょう。ぜひ、スウェーデンへいらっしゃって下さい。

平成2年7月27日

#### アンナ・オーリン

日本は面白くて珍しい国です。昔の文化古い寺や大仏と、現代的なパチンコの混合は世界の中でも見つかりにくいと思います。

たいてい私の会った日本人はやさしくて、外国人に好奇心を持っている人です。

日本とスウェーデンと比べるとあまり易しくないと思います。ふたつの国とも物価高で、教育程度は高く、びんぼうな人が少ないです。でも生活態度やよかの過ごし方やしゅみ、おもに考えかたはぜんぜん同じじゃありません。サマー・スクールの間に日本人の考えかたがすこずつわかりはじめました。

日本で一番好きなものは大きなデパートです。そこで一日中アイスクリームを食べたり、喫茶店へ行ったり、面白い人を見たり、いろいろな買い物をしたりしていました。それで私の買い物の日本語が上手になりました。店員はいつもいてねいで、お客さんに自分でゆっくり決めさせます。

一番きれいな物は虫です。もちろんスウェーデンでも虫がいますが、日本の虫の方がこわいです。私の部屋の外で夜も昼も、みな虫の友だちと一緒に高い声で歌います。たまにあまりうるさくて眠ることができません。不幸にも蚊は私が大好きです。日本のは小さくて、音も小さくて、殺しにくいので、毎日蚊にさされました。

では、つぎに日本にきた時に新しい経験をします。

7月27日

## トーマス・ランネルブ

Efter drygt två månader i Japan, med sommarkola på Gifu Dai, är det nu dags att lämna Gifu. En vecka av resande i Japan återstår dock.

Bilden som vuxit fram under min första tid här i landet, är inte klar och entydig. Två månader ger bara, för en ursvensk som jag, möjlighet att skrapa lite på ytan till den nya kulturen. Visst hade jag en förutbestämd bild av en nation av hårt arbetande, allvarligt sinnade och traditionellt medvetna invånare, men naturligtvis kan man inte tillämpa några schablonmässiga regler på helt lands folk.

När den första osäkerheten lagt sig, är japanen ofta mycket nyfiken på en främling. Frågorna kan ibland kännas ganska personliga, varken ens yttre eller ens livsstil är på något sätt tabu. Om man valt rätt tidpunkt för frågan vet man först efteråt. Det kan vara bättre att bli utfrågad än att fråga.

Att själv försöka förutsätta en japans reaktion är omöjligt. Konflikten mellan det nya samhället och de uråldriga sedvänjorna, som man som västerlänning kan anta vara ett problem eller roten till motsättningar, behöver inte ha någon betydelse i sammarhanget.

Här går det moderna hand i hand med det traditionella, det ena behöver inte slå ut det andra för att överleva. Människor är en blandning av gammalt och nytt. Tänk på att en modern livsstil inte behöver betyda att kulturavet gått förlorat, och glömts bort. Traditionella värderingar och sedvänjor fyller fortfarande en viletig funktion, speciellt i umgänget med andra, tex utanför familjen.

Ifrågasätt gärna dina egna värderingar på livet, inte för att ändra eller förkasta dem, men det ger dig kanske en möjlighet att lättare förstå någon annans. Saker är inte alltid vad de ser ut att vara här i Japan, men låt inte det bekymra dig, livet är inte förutbestämt, och det ställer till med många spratt, så ta det inte för allvarligt — det gör inte japanen.

### 〈大意〉

岐阜大学でのサマースクールに参加して、はや、2ヶ月あまりが過ぎ、今、岐阜を去ることになりました。このあとの1週間は、日本を旅行する予定です。

最初に日本に来た時の私の日本に対するイメージは、その輪郭がはっきりせずともあいまいなものでした。でも、このわずか2ヶ月間が私のような生粋のスウェーデン人に日本の未知なる文化のある一面をかいま見るチャンスを与えてくれたように思います。私が以前、日本人に対して持っていたイメージは、もちろん勤勉で、まじめで、伝統を重んじる人々というものでした。しかし、このような固執した考え方を全ての日本人にあてはめることは無論できません。

日本人は、外国人に対して最初の緊張感が解けるとやがてそれが好奇心に変わるようです。というのは、日本人の私達に向けられる質問は外見だけでなく個人のライフスタイルなど、時々、

私的な分野に及ぶからです。(普通スウェーデンでは、親しい友達以外初めて会ったような人には、このような質問はしないものです。：ミカエルさん談)もし、TPOをしっかりと考える的を得た質問をすれば、それは大きな問題にはなりません。(でもトーマスさんの場合は、日本で日本の文化に直に触れてみて、初めのうちその時と質問のタイミングがうまくつかめず、相手の反応がどうも芳しくなかったようです。)

私にとって日本人の反応を予測することは不可能です。日本は現代社会と古くからの習慣が急速に、しかも激しく衝突し合って今の文化が成立しました。だから現在あるその文化を西欧人が理解することは少々難しいように思われますが、実のところこれはそれほど大きい問題ではありません。なぜなら重要なのは、それを理解しようとする事だからです。

日本では、現代社会と伝統文化が共存しているので、一方が他方を抑圧するようなことはできないと思います。人間の中には、それぞれ新しい部分と古い部分が混ざり合っています。文化遺産というものが序々に失われてきたり、忘れ去られたりしていますが、それが現代のライフスタイルではないということを考えてみればわかるでしょう。伝統的な思考と習慣は、今なお重要な意味があります。特に家族以外の誰かとつき合う時はとても大切です。

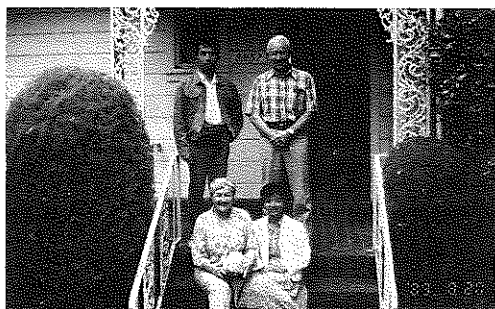
私達は人生というものについて、自分の考えを常に自分自身に問うべきです。決してそれを変えたり、またすてたりする必要はありません。けれども、もしそれが本当に自分個人の考えであれば、他人を理解するのがもっと簡単になるかもしれません。西欧人にとって日本文化は、時々いろいろな面で私達の文化と大きく違います。(例えば日本人の態度や言葉の使い方などは、スウェーデンの文化や、スウェーデンで勉強したことと比べるといくつかの違いがあるからです。：ミカエルさん談)でも心配しないでください。明日何が起るかは、誰にもわからないのです。そして人生に試練はつきものです。だから、あまりまじめに考えすぎないでくださいー日本人ならそうしませんよ！ー

※トーマスさんがこの原稿をスウェーデン語で残していつてくれたので、同じルンド大学から留学中のミカエルさんに翻訳を手伝ってもらいました。尚、途中無断で注釈を加えましたので、お含みおきの上、御了承ください。

## PTPインストラクター紹介 第3回

### 古田 育子

早いもので国際交流室に出入りさせて頂く様になって5年の歳月が流れようとしている。1985年秋、1年余りの米国滞在を終え、帰国した直後に、あちらで我々家族が何か御世話になり、いろいろと教えて頂いた方々への感謝の気持をこめて、今度は逆に私が何か留学生さん達の手助けをしたいと思ったのが、交流室に顔を出した直接の動機であった。初めて担当したPTPの生徒さんは中国からの研修生であったが、まず彼の記憶力と頭の切れの良さに驚き、考え方の大きさ心の広さに感銘を受けた事を覚えている。この5年間、どのように日本語を教えるべきなのか暗中模索の日々であったが、いろいろな国の若い人達と語り合うことが出来、彼等の国について多くの事を知り得たと同時に、わが国のことについてもあらためて見直すよいチャンスを与えられた。



それぞれに異った文化・言語をもち、国が違っても我々は皆宇宙船地球号の仲間であることを再認識しつつ、今後も楽しく、彼等と共に学んでいきたいと思っている。

## 「四化時代」 河野 脩子

「四化時代」という言葉、お聞きになった事がありますか？ 現代を称して「四化時代」というそうです。四化とは「女性化」「高齢化」「情報化」「国際化」との事。皆様はこの流れにどれ位貢献していらっしゃいますか？

「女性化」「高齢化」この2点に関しては、私は何ら努力する事なく無意識に参加しています。

「情報化」については、受身の形で、私なりに情報化社会の恩恵を受けています。

「国際化」この件に関しては無意識にではなく、少々意識を持って、受身ではなく、積極的な姿勢を持ちつづけたと思っています。

国際交流室で留学生の方達の日本語の勉強のお手伝いをし、それ以上に留学生や先生方から多くの事を学ぶ事ができ、インストラクターとしての活動は、「国際化」との理想的なかかわり方だと思っています。ただ私の場合、「国際化」に貢献しているというより、「国際化」の流れにのせていただいているというところですが…。

どうぞこの四化に「武力化」などという言葉が加わりませんように。「国際化」の一層の推進を祈るばかりです。

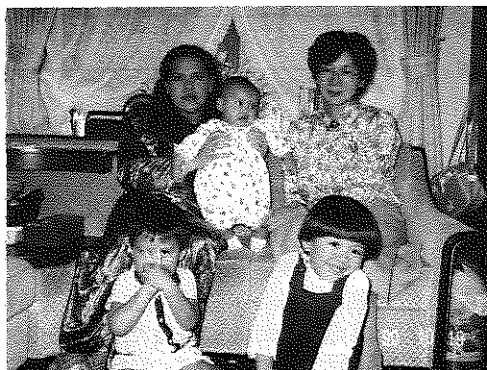


## 心の交流 渡辺 暁子

初めて岐大のキャンパスに降り立った時、建物の白さが、異様に眩しく眼にしみたのを思い出します。

あれから2年半。建物の白さにも、交流室の雰囲気にも、ようやく少しずつ慣れてきたところです。そして、今はこうして留学生と「日本語」を通して対話できることを、とても幸せに思うと共に、こういう機会に恵まれたことに感謝しています。

この2年半を振り返ってみて、私に足りないものが二つあることに気づきました。一つは、日本語の専門的知識。日本人であり、日本語を話すということと、日本語を教えるということは、全く違うことなのだ、と、遅滞きながら気づきました。そこで、ことばの勉強会を受講していますが、時々ふと、日本語が外国語に思えてきたり、自分が日本語を学んでいる外国人に思えてきたりします。でも、今まで思いもよらなかった発見ができてワクワクしたり、質問が回ってくるとヒヤヒヤしたりで、とにかく緊張の90分です。



二つ目はユーモアのセンス。学生時代、楽しい先生の授業は待ち遠しく、勉強にも身が入ったものです。こちらの方は、勉強してもすぐに身につくという訳にはいかないので、主人と子ども相手にジョークを飛ばしたりしていますが、いまひとつというところ。やはり、ユーモアは人間性からにじみ出るものなので、人間性を磨くことがまず先決、と悟ったこの頃です。

さて、今年前期にPTPでアフリカの留学生を受け持ちました。彼は非常に勉強熱心な人で、一つの事柄から会話がどんどん発展していったり、矢つぎばやの質問にこちらがたじたじしてしまうこともよくありましたが、彼のひたむきな姿勢に私は多くのものを学びました。そんな彼が、「ルーマニアに留学していた時には、たくさん友達ができたのに、日本では全然できません。僕には何故だかわからない。」と言うのを聞いて、何とも言えない寂しい気持ちになりました。日本の、いえ、岐大の学生が早く「大切な何か」に気づいてくれることを願っています。

時間割 1990年度後期(平成2年10月15日～平成3年2月22日)

	月	火	水	木	金
9:10	・初級日本語クラス 1 後藤	・初級日本語クラス 4 中島	・初級日本語クラス 6 及川	・初級日本語クラス 8 後藤	・初級日本語クラス 10 加藤
10:40	・中級日本語クラス 河地		・洋裁クラス 江口	・中級日本語クラス 河地	
10:50	・初級日本語クラス 2 後藤 ・中級日本語クラス 加藤	・初級日本語クラス 5 中島	・生け花クラス 田中(亨)	・初級日本語クラス 9 後藤 ・中級日本語クラス 河地	・初級日本語クラス 11 加藤
12:20	・医学部初級日本語 I 中島		・言葉の勉強会	・医学部初級日本語 II 中島	
	◇英語クラス (12:00～13:00)		◇ポルトガル語クラス (12:30～13:30)		☆英会話クラス (12:30～13:30)
13:30	・初級日本語クラス 3 加藤 ・医学部中級日本語 I 及川		・初級日本語クラス 7 及川 ・初中級クラス 中島	・医学部中級日本語 II 及川	・初中級クラス 及川
15:00					
15:10					
16:40					

◇中国語クラス  
(17:00～18:00)

原稿大歓迎!

〒501-11 岐阜市柳戸1-1 岐阜大学国際交流室 NEWSLETTER 係 宛

●編集後記●

いつもは季節感を味わう前にすぎ去ってしまう秋も、今年は例年がない暖冬のおかげで、まだ所々にそのかけらが残っているようです。そのため、この時期に“台風”というおみやげまでいただきましたが...

さて、少々遅くなりましたが10号ができましたのでお届けします。何年ぶりかで編集という作業に参加して、なつかしいような、大変だったような複雑な心境です。

ところで、このNEWSLETTERも、少しずつ模様替えを!と考えているのですが、どなたか御知恵を拝借願えませんか。(TOM)

発行 岐阜大学国際交流室  
〒501-11 岐阜市柳戸1-1  
電話 (0582) 30-1111  
内線2380/2381  
編集 宮田幹二・中島智巳